

## 想定損失額等について

以下では、観測期間を2000年4月1日から2017年8月31日までの間とし、当行が合理的に取得できるデータを用いた一定の前提条件を基に算出された中途解約時および満期時における想定損失額等について、ご案内いたします。この書面でご案内する想定損失額等が、「お客さまが許容できる損失額」の範囲内であるかを十分ご確認のうえ、この預金に預け入れを行うか否かをご検討ください。

なお、当該観測期間中のデータが取得できない場合や存在しない場合は、他の類似期間等のデータを参考のうえ、想定損失額等を算出しています。また、お客さまが今後行う実際の取引においては、それら過去のデータに基づく想定範囲を超える状況の発生に起因して損失が生じることがあります。従って、「実際の取引において生じる損失額」は、「本書面でご案内する想定損失額等」とは異なる場合があります。

## 中途解約時

この預金をお客さまが中途解約することは原則としてできません。ただし、当行がやむを得ないものと認めて中途解約に応じる場合には、次のとおり、損害金をご負担いただきます。なお、この預金を中途解約されるお客さまにご負担いただく損害金は、中途解約時の市場実勢に応じて変動しますので、中途解約時における実際の金融情勢によっては、以下でご案内する想定損害金額以上の水準となる可能性もあります。この点、十分、ご注意ください。

### ○ 損害金の概要

損害金とは、中途解約日から満期日までの期間に対応する、中途解約される預金と同一条件の預金を新たに調達(再構築)するための費用で、中途解約日から満期日までのこの預金の再構築額(以下「再構築額」といいます。)および再構築取引に伴う費用により構成されます。

再構築額は、中途解約時における市場実勢により計算されますので、この預金のお申し込み時点において、確定的な金額を提示することはできません。

再構築額の計算は、中途解約時における「円と豪ドルとの間の為替レート」、「円とNZドルとの間の為替レート」「為替の変動性」、「中途解約日から満期日までの期間(残存期間)に対応する円、豪ドルおよびNZドルの市場金利」、「この預金の適用条件」、「当行の資金調達環境」などを要素として、主に次の点から中途解約対象預金の価値を評価することにより行われます。

#### ① 中途解約時の通貨オプションの価値

#### ② この預金の適用金利と中途解約時の残存期間に対応する(円の)市場金利との差

再構築額は、当行が合理的と認める基準値を採用し、当行所定の計算方法により算出されますが、一般的に、中途解約時の通貨オプションの価値は、中途解約時における円と豪ドル間または円とNZドル間の実勢為替レートが円高になればなるほど、また、円と豪ドル間または円とNZドル間の為替の変動性が高くなればなるほど高くなりますので、お客さまにご負担いただく再構築額は高くなります。また、市場金利との差の評価は、残存期間に対応する市場金利が、適用金利より低い場合は損害金を減少させることとなりますが、適用金利よりも高い場合は再構築額を上昇させる要因となります。

### ○ 想定損害金の水準

以下では、この預金が入直後に中途解約された場合の想定損害金の水準について、ご案内いたします。

#### ●市場の変動が無かった場合の想定損害金

基準日現在における市場実勢を前提とすると、この預金への預け入れ直後にこの預金の中途解約をされた場合であっても、元本の11%程度(元本が500万円の場合、55万円程度)の損害金をお客さまにご負担いただくことになると見込まれます。

#### ●次の《前提条件》のような大幅な市場変動があった場合の想定損害金

この預金への預け入れ直後にこの預金の中途解約をされた場合、預け入れ直後に次の《前提条件》に記載のような大幅な市場変動があったことを前提に想定される損害金は、67%程度(元本が500万円の場合、335万円程度)になります。

##### 《前提条件》

##### 「為替の変動性」

預入時の市場水準を観測期間(上記の通り、2000年4月1日から2017年8月31日までの期間)中の最小値とし、中途解約時に観測期間中の最大値まで上昇したものと仮定。

##### 「円と豪ドルの金利差(豪ドル金利-円金利)および円とNZドルの金利差(NZドル金利-円金利)」

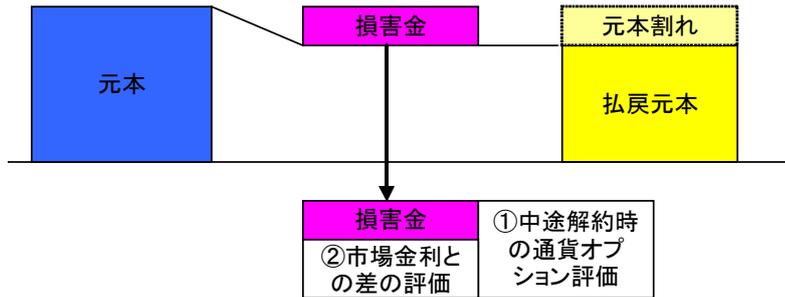
預入時の市場水準を観測期間中の最小値とし、中途解約時に観測期間中の最大値まで上昇したものと仮定。

##### 「為替レート」

預入時の実勢為替レートから、中途解約時に観測期間中の最大変動幅分(豪ドルが49%程度、NZドルが57%程度)預入通貨高水準となったものと仮定。

## 損害金イメージ図

このイメージ図は、損害金の考え方を一般的に説明する目的で作成されたものであり、イメージ図中の各項目の面積比が実際の金額を正しく表現しているとは限りません。



## 満期時

満期時受取通貨が外貨(豪ドルもしくは NZ ドル)となった場合には、「特約設定レート」で当初預け入れ元本が外貨(豪ドルもしくは NZ ドル)に交換されることとなります。したがって、「特約設定レート」により交換された外貨を預入通貨(円)に換算した値と当初預け入れ元本との差が満期時にお客さまに生じると想定される損失(以下「想定損失」といいます。)となります。

観測期間中の豪ドルの円に対する最大下落率は 49%程度、NZ ドルの円に対する最大下落率は 57%程度です。満期時受取通貨が NZ ドルとなり、円と NZ ドルの実勢為替レートが、預入時の実勢為替レートから 57%程度下落したものと仮定しますと、その場合に想定される損失は 57%程度(元本が 500 万円の場合、285 万円程度)となります。

※上記はあくまでも過去のデータを参考に算出したものであり、この過去のデータを超える為替レートの変動があった場合の損失は、上記でご案内する想定損失以上となります。